

平成26年度

浜田教育事務所だより

第49号 平成26年7月11日

- ◆調整監あいさつ (P1)
- ◆生徒指導専任主事より (P6)
- ◆研究指定等 (P8)
- ◆総務課より (P2, 3)
- ◆「イエベン先生登場」「私たちの道徳」(P7)
- ◆派遣指導主事・社会教育主事より～大田市～ (P4, 5)



価値付け、意味付け、問い続け 調整監 鳥居 正嗣

1学期末を迎え、各学校では年度当初の計画や取組について確認し、成果を共有するとともに、2学期からの取組を充実していくための方策について追加したり修正したりする時期になりました。日々、子供たちの幸せを願って取組を続けている皆様方に心から敬意を表します。



4月から子供とのかかわりを直接もつことがなくなった私ですが、交渉の先、文書の先には子供がいると常に自分に言い聞かせながら取り組んでいるつもりです。しかし、子供たちの願い、市町教育委員会や学校の思いに沿った結果とならないこともあり、申し訳なく思っています。

さて、5月1日から7月9日にかけて、管内の全ての小中学校(78校)を訪問させていただき、特に「学力育成上の課題と方策」についてヒヤリング及び情報交換をさせていただきました。ご多忙の中、丁寧な対応をいただきありがとうございます。以下、多くの学校で共通して取り組まれていることについてお知らせをしておきます。

○学力育成の方策として

「見通しを立て、振り返る学習」、「思考力・判断力・表現力を育成するためのペアやグループ学習、書く活動(ノート指導を含む)」、「学校図書館活用教育(要約学習を含む)」、「家庭学習(手引きの見直し、授業の発展や予習を視野に入れている学校が増加)」

○上記の方策を支えるための取組として

「教職員の和づくり・育成」、「小中一貫教育、小小連携」、「第2分掌部会的な組織づくり」、「学級(学習)集団づくり」、「ユニバーサルデザインによる授業」、「授業評価(子供による授業評価も増加)」

例えば、「見通しを立て、振り返る学習」について、より具体的な取組の方向性やその意義について説明をしていただいた学校もありました。その説明を聞きながら、この方策は目標やねらいを達成し、子供たちの力を伸ばしたり意欲化を図ったりするための一つの手立てであることを十分に意識しておくことの重要性に改めて気付かせていただきました。さらに、各学校において自分たちが行っている方策等は何のために行っているのか、常に問い続け改善を図っていくことが大切なのだと認識させていただくことができました。

先日、島根県学力調査の結果が各学校へ送付されました。改善点を明らかにし、改善策を立案していくことはもちろん重要なことです。自校の取組について全員のベクトルが揃っていたのか等も踏まえながら検証をしていただけたらと思います。また、成果があった方策についても十分に共有していただきたいと思えます。そして、その方策について真剣に取り組み、努力を重ねてきた子供たちに意味付け・価値付けを交えながら成果を伝えることも大切にしていきたいと思えます。主役は子供たちです。子供たちが元気になる分析、そして、学校が元気になる分析となることを願っています。

2014 FIFA ワールドカップブラジル大会が行われています。日本のサポーターが試合終了後にゴミ拾いをして競技場を後にする姿に賞賛の報道がなされているそうです。サポーターは、これまで自分たちが行ってきたことをブラジルの地でも当たり前のこととして行ったのだと思います。学校訪問の際に、多くの校長先生や教頭先生から当たり前のことが当たり前に行っていることについて、その価値に気付きにくいものです。子供たちが当たり前として行っていることについて、しっかり価値付け・意味付けをし、そのよさに気付き、自信をもつことができるようになることも願っています。

総務課スタッフより

◆私が学校に期待するもの

総務課長 藤田裕由



4月に赴任してきて3ヶ月が過ぎました。教育関係の業務は初めてですので、この文書の中に私の勘違いの部分もあると思いますが、お許しをいただきたいと思っております。

島根県の人口は70万人を割りました。特に石見地方の減少率が高くなっています。この人口減少に歯止めを

かけるため、知事部局では様々な活動を行っています。島根県西部では、西部県民センターを中心として「なつかしの国 石見」をキャッチフレーズに石見地方を少しでも知ってもらおうと活動しています。石見地方を少しでもPRするために皆さんも是非このキャッチフレーズを使ってください。

石見地方の人口減少の原因の一つに出雲地方と違って、地元へ住むことへの執着心が少ないことがあるのではないかと考えています。私は小さい頃に中学校を卒業したら家を出るんだよと言われて育ちましたので、帰ってくることは頭の中に全くありませんでした。(帰ってきたのは、かなりの偶然でした。)

行政の仕事で最大のものは、地域社会の維持ではないかと思っていますが、人口が減少(消滅)しては地域社会の維持はできなくなります。

石見地方の人口減少を少しでも食い止めるためには、吉賀町で実施しています(していた?)サケ・マスプロジェクトのように子供に一度家を出ても戻ってくるように小さい頃から教えこむ必要があると思います。

たしかに石見地方では仕事が少ないなどの不利な点がありますが、出雲地方のように家に対する執着心があれば、状況は相当違うと思っています。

人口減少を食い止めるために役に立ちそうなことであれば、何でもやってみる必要があるのでは…それによる影響を考えている時間はもうないと思います。

帰巢性を子供たちにすり込むのは、主に家庭と学校と思われれます。学校での取組がこの地域の人口減少に与える影響は大きいと思いますので、よろしくお願ひします。

◆我が家の朝

企画員 濱村修司



2年目になりました。今年度も原稿依頼があり、「うーん。何を書いたらよいか?」と、またまた頭を悩ませているところです。「去年は、何を書いたかな?」と、1年前のことさえも思い出せないほど記憶力が低下している私です。(もう、4※歳だから、加齢ですかね。)

とりとめの話ですが、私の家庭の朝をお話いたします。私の家族構成は、妻(3※歳)、長女(2歳)、私の母親(※3歳)の4人家族です。1日の始動は、母親が洗濯機のスイッチを入れることから始まります。年齢のせい早起きで、5時30分くらいから音が鳴り、寝ている私はいつも、「そんなに早く洗濯する必要があるの?もう少し寝かせてくれ。」と毎日のように思いながら、それでも寝ています。その後、6時30分くらいに、妻と娘が起き始めます。最後が私。娘も寝起きが悪く、NHKの子供番組を見せ、機嫌を取りながら朝食を食べさせようとするのですが、テレビに夢中でなかなか食べてくれない。(時間が無いよー。)なんとか食べさせて、服を着せようとするのですが、これがまた一苦勞。いろいろあるのに自分が気に入った服でないと着てくれない。(2歳なのに、女優気取り?)妻がいる時はいいのですが、早出出勤の時は、私と母親の二人で、なだめすかして、なんとか登園の準備。

こんなふうにドタバタした朝を過ごしているのです。(ふうー。)

◆便利だけでは

企画員 黒見正樹(学校事務職員)

世の中、すごく便利な時代になりました。日常生活に生活を効率化するといった意味で、電化製品や生活用品など多く出回っています。昔に比べて考えなくても、体を動かさなくとも生活を送ることができます。体がなまらぬように便利なも



のにはなるべく頼らないよう生活しているつもりですが…。

仕事でも効率化という言葉をよく耳にします。パソコンが普及し仕事をする上で、どの社会でもパソコンは必要不可欠なものとなりました。今まで1時間費やしていた業務を便利ソフトやExcelを使ってデータ処理すれば15分で出来たとしたら、誰もがそれを望むのは自然なことです。数字や文字を入力すれば自動的にデータが反映され、ボタン一つで書類が印刷されて出来上がり。内容や過程を知らなくても完璧な書類が完成します。別に内容や過程を知らなくてもいいじゃないかと言う人もいます。

ある校長先生が、「大規模校で教務主任時代に時間割を組む時に、ソフトで自動計算させればすぐ時間割が完成する。しかし、マスの上で自分で色々と考えながら作りあげていく労力も大事だ。」と言っておられました。

ただ作業が簡単にできるというのではなく、その過程や内容を理解した上で便利なものを使うことが、本当の効率化なのではないでしょうか。

我が子にも現代の便利さと、昔の良さも経験させつつ子育てしていこうと思う今日この頃です。

◆今さらなことではありますが…

企画員 新川勝美



浜田教育事務所に来て、3年目の夏を迎えようとしています。先日、県の企画員研修を受講しました。その研修の中で自分の上司はどのタイプに当てはまるのか分類したり、自分の職場行動について振り返るという課題がありました。

今の上司、藤田課長について私がどのような分類をしたか…気になる方もおられるかと思いますが、藤田課長とは浜田教育事務所と一緒に仕事をさせていただいて2か月間と日も浅かったので、残念ながらはっきりとした分類ができませんでした。(結果を隠しているわけではありませんよ！)

そして、私の仕事に対する姿勢はというと「自らの視点で考えることをせず、他者に対しても積極的に働きかけていくわけでもなく、言われた分だけ「ま、やるか」というタイプ」に分類されてしまいました。確かに、私は自分に自信がなく積極的に提案・行動することや、周りとのコミュニケーションを図ることが苦手です。でも、組織の中でチームとして仕事をしてい

くには今の姿勢ではダメだよなあとは分かっていたものの、改めて思い知らされました。

ということで、せっかく2日間もかけて受けた研修ですからこの結果を放置せず、これを機に事務所内はもとより、学校事務職員の方とももっと積極的に情報共有していきたいと思っています。みなさんよろしくお祈りします！

◆先生方を横目で見ていると…

主任 福田幸太郎

私が、昨年度から力を入れているのは浜田教育事務所ホームページの充実です。

きっかけは、事務所の先生方が、各校のより良い学校づくりをサポートするために、日夜学校訪問や資料作成などに熱心に取り組んでいるのを目の当たりにし、それに加えて、県教育委員会も各校で使ってもらえるよう様々な資料を数多く作成していることがわかったことでした。外部からはなかなか分かりにくい教育事務所の取組の紹介をしたり、様々な資料を各校の先生方が見たいときに見られるようにしたりするための「道具」として、インターネットは向いているなど感じ、素材は先生方から提供を受け、ホームページへの掲載作業等に取り組んだところです。(私のお気に入りのページ：

http://www.pref.shimane.lg.jp/hamada_kyoiku/jimusyo/event_jigyou.html)

先生方の「思い」や「アイデア」を事務職員の持っている「道具」で実現させるというと大げさかもしれませんが、教育事務所内で先生と事務職員の「協働」がちょっとできたかなと。今後もタイムリーな情報提供が出来たらいいなと思っていますので、ホームページについて学校の皆様からもお気軽に意見いただけると嬉しいです。

学校でも先生と事務職員の「協働」で実現出来る何かがいろいろあるのかもしれませんが。お互いの業務を時々ちらちら横目で見ているとその何かが見つかるのかもしれませんがね。



各市町の取組から ～大田市～

大田市教育委員会 派遣指導主事（学力向上担当） 矢田 悦夫

学力向上に向けて ～新たな取組～

①授業改善シート

平成25年度末に各校が作成した取組検証シートの「授業改善の手立て」を行動目標化しています。

各校は、日々の授業改善、授業評価に活用しています。

②学力向上スーパークエスト

上位層の学習意欲を高めるための取組です。

・スーパー要約QQ

要約力を高めるための教材文を準備しています。読んで役立つ53種類の題材を提供しています。

・スーパー算数（数学）QQ

思考力を要する応用問題を準備しました。数リニックの過去問を1問1答で提供しています。

③家勉強タイムアップ・プロジェクト

各校では「家庭学習の手引」等をもとに家庭学習の習慣化に向けた取組を進めています。

そうした取組の成果を確かめ、次に生かすために年間3回（6月・10月・2月）の家庭学習時間調査を実施します。

④要約学習研修会

鳥田勝信先生に師範授業をしていただき、要約のスキルアップを図っています。6月に仁摩小学校で実施した研修会には、のべ100名の教職員が参加しました。



大田市教育委員会 派遣指導主事（特別支援教育担当） 川上 諭

特別支援教育担当指導主事として、今年度から大田市教育委員会に派遣されている川上です。

今年度の取組の中から以下の2つを紹介します。

1 相談支援チーム

昨年8月、大田市にも特別支援連携協議会ができ、その下部組織として相談支援チームが設置されました。相談支援チームの事務局は学校教育室に置かれ、もう一人のスタッフと私が担当しています。

事務局としての今年度の課題は、相談支援チームの活動について市内各校園や保護者に周知することと、実際に運用しながら効果的な運用のあり方を探っていくことです。

周知については、チラシを作成して各校園をとおして配布したり、市報に記事を載せたりしました。また、幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校の特別支援教育コーディネーターを対象にした研修会を開き、相談支援チームの概要や活用の仕方等について説明を行いました。

特別支援教育に関するニーズはとて高く、6月末現在での相談件数は約40件です。年度当初は「即対応」を心がけていたのですが、現在は毎日のように複数の校園に出かけており、「順番待ち状態」となってしまうのが大きな悩みです。

2 特別支援教育支援員配置制度

大田市では、小・中学校の特別支援教育推進のために特別支援教育支援員や介助員（以下、支援員等とする）を配置しています。

今年度から、資質向上のために支援員等を対象とした研修会を実施します。また、支援員等の適切かつ効果的な活用を目指して市独自の学校訪問指導を実施し、支援場面の観察や指導・助言を行います。

以上のような取組をとおして、大田市のすべての子供たちの進路保障を進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。



大田市教育委員会 派遣指導主事(生徒指導担当) 竹下和宏

児童生徒、家庭、学校を関係機関とつなげる

今年度から大田市派遣指導主事として大田市教育委員会で勤務しています。現在、学校訪問等で市内の小中学校を訪問させていただいています。お会いする先生方に「現場と違って大変でしょう」「体に気をつけて」と温かい声をかけていただき、その声に元気をもらいながら頑張っています。授業の様子を見させていただき、現場の忙しさや難しさを理解しながら、児童生徒や先生方を支援していきたいと考えています。

島根県は不登校児童生徒の割合が他の都道府県と比べて高いとされています。不登校などの課題を抱えている児童生徒を支援していくためには、まわりの大人たちがつながって行くことが必要です。課題解決に向けて、SC、SSW、子育て支援課、児童相談所、警察、ボランティアの方など学校に関わる多くの大人がつながっていくことが必要であり、そのつなぎ役となれるように頑張りたいと思います。また、大田市では6月議会で大田市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例が可決されました。各学校でも昨年度末から「いじめ防止対策基本方針」を作成しています。今後、大田市いじめ防止対策推進法を受けて、各学校でいじめが認知されたときに適切な対応ができるように見直しを図ることになります。見直しを行いながら、いじめについての危機意識を高めるだけでなく、生徒一人一人にとって居心地のよい学校、学級になるよう考える機会にしてほしいと思います。

(※SSW：スクールソーシャルワーカー…社会福祉の専門家と連携して課題解決への対応を図る人材。)



大田市教育委員会 派遣社会教育主事 吉田茂延

大人もふるさと教育

大田市での勤務が、学校を含め4年目になりました。派遣社会教育主事としてのこの2年間は、大田市内の全地域に出かけ、たくさんの大田の魅力を発見できました。味わい深い建物が建ち並ぶ大森や大代の町並み、三瓶の雄大な自然、五十猛の美しい海岸線など、気に入った場所にはプライベートでも出かけていますし、さらに魅力的な場所を発見できるのではないかと期待感はずきません。また、こちらの気持ちも優しくなるような温かい人、年を重ねてもまだまだチャレンジ精神旺盛な人、自分のこだわりや地域のことを話し出すと止まらない人など、数多くの魅力的な人との出会いもあります。

今年度、島根県が取り組んできたふるさと教育は10年目を迎えました。新たに「小中9年間を通した発展性・系統性のあるふるさと教育」や「中学校区の学校の支援体制のネットワーク化」などに取り組み、学校・家庭・地域が連携協力したふるさと教育をさらに推進していくこととなります。派遣社会教育主事としては主として地域の支援体制の構築に関わることとなりますが、何より大切なことは、大田の魅力が語れる大人、「自分は大田が大好きだ!」と自信を持って語れる大人と子供達との出会いがあることではないかと考えています。子供は素直です。大人の姿を見ています。大人に影響されるところもたくさんあります。「大田はいいぞ!」と言われればそう感じるでしょうし、「大田なんて…」と言われればそう感じてしまうかもしれません。

ふるさと教育を推進するために大事なことは、実は“大人もふるさと教育”なのかもしれません。4年目の自分が語ってもあまり効果はないでしょうが、自分は今、大田が大好きです。大田の子供達のために、大田が大好きな大人がチームとしてまとまれば、大田を愛する子供達が育ってくれると期待しています。社会教育に携わる公民館のみなさんとともに、今年度は“大人もふるさと教育”，頑張ります!



チームプレーで取り組む生徒指導 生徒指導専任主事 伊津 洋士



ワールドカップサッカーブラジル大会、コートジボアールチームとの初戦をラジオで聴いていた私は、長友選手からのパスを受けた本田選手の見事な先制ゴールに感動しました。残念ながら決勝トーナメント進出はなりませんでしたが、チーム

のメンバーは仲間を信じ、自分の役割を果たすことはもちろん、仲間の役割や動き、また気持ちも十分理解した上でパスを出したり受け取ったりしながら、最後まで諦めないプレーを見せてくれました。

校内の生徒指導でも同様に、職員同士がお互いの役割や動きを理解した上でつながっていくチームプレー（連携プレー）をすすめることで、効果が表れています。生徒指導に係る学校訪問を通し、こういったチームプレーのもと、効果的な生徒指導の取組をお聞きしました。その一部を紹介します。

- ・その児童のいいところを見つけ、今できているところを伸ばしていくような面談を全学級で心がけている。
- ・アンケートQU実施後、すぐに担任が回答に目を通し、気になる児童に面談を行う。
- ・全職員で共通理解した内容について、できていないことは小さなことでも見逃さずに指導するが、できていることも見逃さずに認めるようにしている。
- ・教室掲示の仕方、ロッカーの使い方、服装など「そろえる」ことの大切さを統一して指導している。
- ・生徒指導について、各担任が徹底してぶれずに取り組み、効果が表れている。

- ・生活目標について児童会が積極的にかかわり、各委員会ができる取組を行っている。また、各学級でも具体的な目標を立てて掲示している。
- ・気持ちの良いあいさつの仕方を児童に示し、集会で教師が寸劇で紹介する。
- ・普段から児童とのかかわりを大切にし、一緒に遊ぶことで児童の心をしっかりと把握し、そのうえで教育相談を行っている。
- ・毎月行う「心の健康チェック」は、1年間の一覧表形式になっているので、前月の様子と比べながら児童が記入したり、教師が面談に生かしたりすることができる。
- ・不登校傾向の児童に、担任を中心として複数の教職員でかかわった。本人には担任が面談を繰り返し、保護者の思いは養護教諭や教頭がしっかりと受け止めた。今後も気をつけて見守っていく。担任が一人で抱え込まないようにする。
- ・不登校児童に対し、学級担任がつながりを切らさないように努力するとともに、SSWの家庭への働きかけを継続した。
- ・不登校児童にタイミングを見計らって声かけをして、徐々に学校に慣れる時間を設けた。受け入れる学級の児童の雰囲気も大切にした。

これから夏休みに向かいます。きまりやマナー等の児童生徒への指導にあわせ、教職員の連絡先や事件事故への対応についての再確認も行い、夏休みも各学校がチームプレー（連携プレー）で生徒指導をすすめることができるよう体制を整えていきましょう。今後も生徒指導に係る学校訪問でお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

サッカー日本チームもまた4年後を目指してのチャレンジがスタートします。これからも応援を続けていたいと思います。

「がんばれ日本チーム」

「がんばれ各学校チーム」



参考文献：『国立教育政策研究所紀要』第140集(H23.3)

学力向上の取組紹介

イエベン先生登場！

今年度の始めに、学校教育スタッフで各市町教育委員会を訪問し、学力向上の取組について話を聞きました。また学校訪問指導で学校にお邪魔すると、様々な学力向上に向けた取組が工夫されていて大変嬉しく、また頼もしく感じます。

今回は、江津市立川波小学校での、家庭学習の充実のために先生方が仕掛けられたことを紹介します。



ある日の児童朝礼。「先生方から」のコーナーで、先生扮する学校帰りの子供が二人ステージに。カバンを置いてすぐに遊びに行く子、携帯ゲームで遊んでばかりいる子。そこに現れるのが「イエベン先生」。二人の子は、イエベン先生から家で勉強することの大切さを教えられ、家勉をがんばる気になりました。その後、各学級で具体的な目標時間やイエベンの取り組み方などについて、担任の先生から話を聞きました。さて…その効果は？

翌日から、子供たちは「昨日は〇分やりました！」「こんなこともやってもいいんですか？」と、先生方の仕掛けは大成功！そして、そのがんばりが継続するように「がんばりカード」なども工夫されているようです。

また、この仕掛けの裏には、PTA総会で校長先生から保護者に向けて、家庭学習の大切さを話されたり、校内の掲示物を家庭学習に関するものにしたりと、様々な布石も打たれていたようです。そしてその後の取組も学校便りや学級通信で発信しておられるようです。

何よりも校長先生はじめ職員の皆さんが楽しみながら取り組んでおられたようです。このような様々に工夫された取組がこれまで以上にますます広がるといいですね。



『私(わたし)たちの道徳』にこめられた願い

心のノート改訂版として今年度配付された「私(わたし)たちの道徳」。作成された全4冊(小学校用3冊、中学校用1冊)の表紙を並べてみると…この本に込められた思いが伝わってきますよね。“本教材は、学校に備え置くのではなく、児童生徒が家庭に持ち帰って…活用できるよう…”と文部科学省からの通知にはあります。「個人持ちにすると、なくなる可能性が…」という声が聞こえてきそうですが(^_^;) 教師用の指導参考資料は年度内に配られる予定です。〈担当：掘江〉

※ちなみに、初等教育資料7月号には特集[「私たちの道徳」教材の特質と活用のポイント]が組まれています。



管内の各種指定事業，発表会等

今年度から来年度にかけて，浜田教育事務所管内で，たくさんの研究指定等を受けていただいています。主なものを紹介します。※順不同

研究指定等	【市町】 地域・学校・期日等
文部科学省「人権教育研究指定校」 島根県「人権・同和教育研究指定校」	【美郷町】大和小学校 10月10日（金）発表会 （平成25・26年度） 【大田市】第三中学校（平成26・27年度）
島根県「環境教育総合推進事業」	【川本町】川本中学校区
島根県「地域でつなぐキャリア教育モデル事業」	【江津市】
島根県「家勉充実・授業改善プロジェクト」	【浜田市】浜田東中学校 【江津市】江東中学校 【美郷町】邑智中学校
島根県「学習と評価実践研究事業」	【江津市】高角小学校
文部科学省「道徳教育総合支援事業」	【大田市】第一中学校，久屋小学校，久利保育園
文部科学省「学校図書館活用教育研究事業」	【大田市】第二中学校，大田小学校 五十猛小学校，仁摩小学校
邑南町「おおなんドリーム学びの集い」	【邑南町】1月25日（日）

「しまね数リンピック」参加者募集！

平成26年10月26日（日），管内4か所[浜田，大田，川本，邑南]に会場を設け開催します。小学校5年生から参加可能です。詳しいことは，各校の担当の先生にお聞きください。なお，子供（家庭）から学校への申込締め切りが9月5日（金）となっていますのでご注意ください。

できるだけ多くの子供たちが参加してくれることを期待しています。
PRをよろしくお願いします！参加費無料！全員に参加賞あり！〈担当：堀江〉

